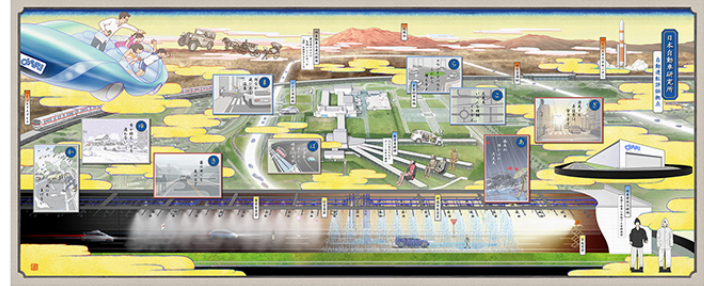


設計者の言葉

「お客様の施設・歴史を、かるた言葉の飛ぶ一枚の絵にすべく、約半年お施主様とキャッチボールをし、そして言葉を頂き、また設計者やコース担当とも幾度となく意見交換をしました。」



かるた無しバージョン

「お施主様が今後この絵をお使いになりやすいように」と、設計者の指示で、カルタ等文字を別々にできるように制作しておいた。

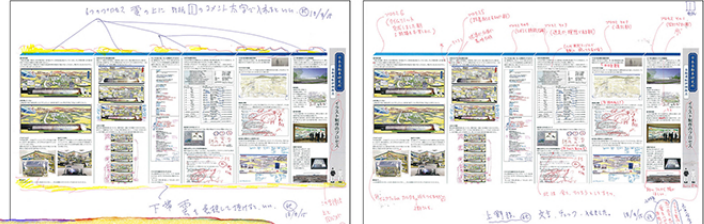
ノベルティとして

その後施主側で、この絵をプリントしたジップバックを作成。その際は、かるたの一部を非表示にし、また文字を大きく読みやすいようにレイアウトしなおしてある。



「プロセス」にもプロセスが!

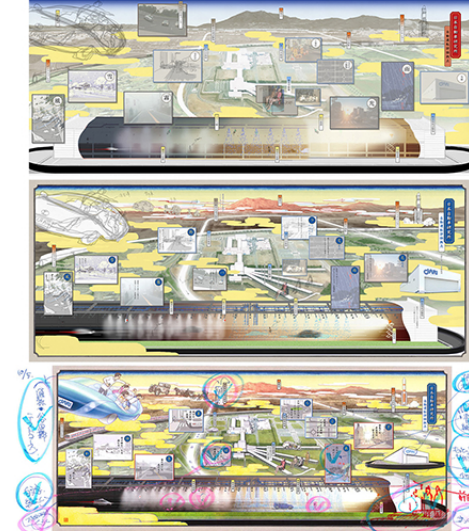
プロセスパネルの原稿を設計者にチェックしてもらったら、予想以上のチェックバック。思いがあふれすぎ。



振り返って... こんな仕事はめったにない。こんな人達はめったにいない。... そんな経験をさせていただき、どうもありがとうございました。

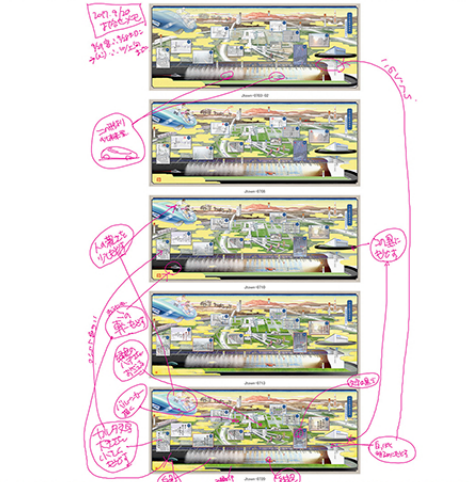
かるただけでなく絵も暴走&迷走

新築した「自動走行評価施設」に端を発した絵だったが、施主の魅力や伝えたい設計者の思いは加速する。かつてこの敷地が日本一のテストコースだった歴史だけでなく、かるたには風や雷といった「未来の実験」を示唆するようなシーンも。



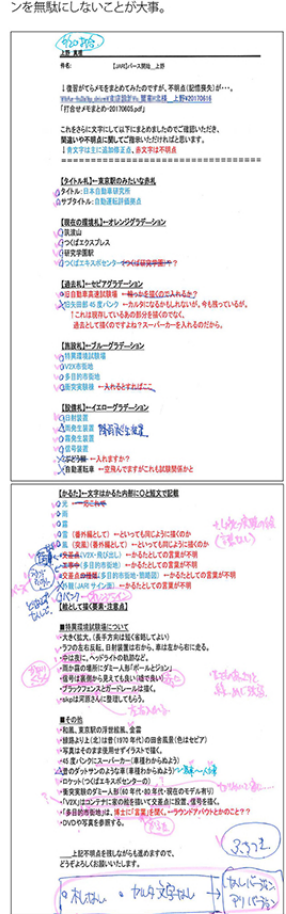
しめくり作業

微妙な色の調整等を繰り返したら、最新の絵が一番良いのか判断がつかなくなりがち。途中チェック画像を並べてみて「これはこの時の色のほうがいい」「これはどっちのほうがいい」など冷静にしめくり作業を行った。



チェックに出した後、ちょっと時間がたってしまった

長い期間進めなくてよく、すっかり前の流れを忘れてしまふ。久しぶりの作業再開時には記憶や資料の確認が必要となる。積み上げてきたコミュニケーションを無駄にしないことが大事。



1ファイルでは動かなくなりました

さほど画素数は上げてないのだが、レイヤー数が増えたため、私のPCではPhotoshopが動かなくなりました。「私・かるた・空飛ぶ車・雷」と「それ以外」のファイルに分けて作業した。

かるたの言葉を決める

これには予想以上に時間がかかった。設計者から施主側の担当者にアドバイスを求めたら、それぞれかるたの言葉が返ってきた。これは嬉しい展開だった。それを受け、打ち合わせテーブルで設計者と二人、雷を見つめ「あめ・あめにもまげず...あめあめふれふれ...」と、およそ打ち合わせらしめ様相を呈していたと思う。(設計者は真剣に八代亜紀を歌っていた。上野は童謡。)言葉がバラけてきたので、再度スケジュールの表にまとめたおした。



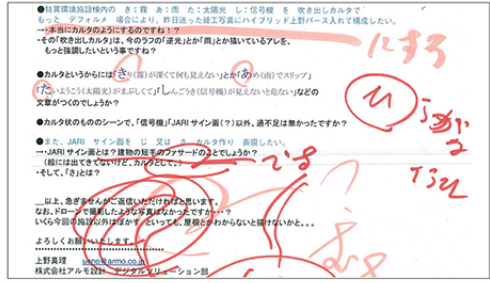
設計者からのかるたイメージ

言葉が決まれば文字の色や大きさを悩み、最後の最後までこのかるた問題はつきなかつた。



相変わらずチェックバックの文字が読めない

電話では伝わりにくい話をメールにすると、やはり漢文字チェックがスキャンされてくる。気持ちは伝わってくるが、そんな時は設計者の右腕パートナーに助けを求める。



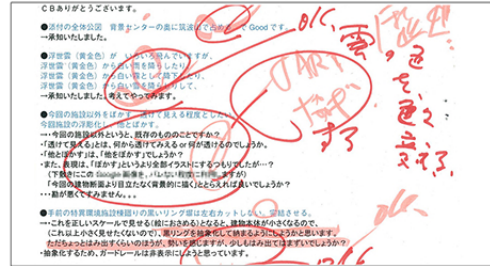
つばに竣工間際の施設の見学

百聞は一見に如かず。太陽光・雨・霧の実験装置を体験。映画のロケにでも使えそうなかっこよさに、描く意欲が増す。



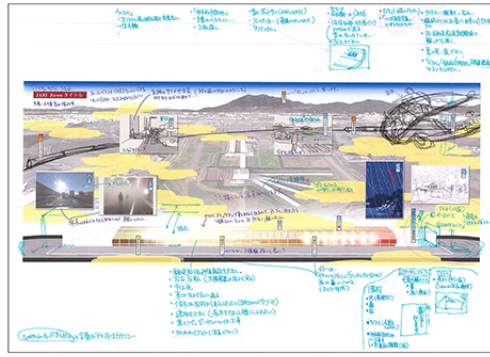
具体的に質問

なるべく箇条書きにしてメールする。すると感想やチェックバックもメールで来たので、さらに返信で質問すると... 今度は気持ちが入りすぎた赤の書き込みが返ってきた!



絵が進むと要望はもっと具体的になる

打ち合わせでは、設計者の細かいつたわりを忘れないようにキーワードでメモする。今見て当初からブレてないことがわかる。また SketchUp が重くて動かなかったため、モデル作成していた設計者に協力していただき、効率よく制作が進んだ。



コンペ時(自動走行システム評価施設)

「別の方が途中までコース制作し、上野が仕上げ」という、関わり日数としては浅い案件だった。しかし設計者が私をメンバーとして充分に認めてくださっていたのが印象的だった。そして竣工の段になり、私にこの不思議な仕事の依頼が来た。



制作目的

自動走行車の評価のための施設を完成し、それまでの実験施設もあわせ、この素晴らしい企業の魅力を伝えること。施主サイドの広報に。未来人(子供)と歴史人(おじいさん・おばあさん)が見える絵を。設計者のイメージスケッチ

設計者の言葉

「このような絵の思いつき、ひとめぼれは、上野さんが描いた、東京駅地下道にある『丸の内歴史往來園』です。地下道のその絵の前を人々が数多く通るのですが、立ち止まり気になりにくいという人の姿を見た時に、まさにこれだと思いました。」



初期打ち合わせ

設計者との打ち合わせで、何が描きたいのか、何に使用するの目的を聞く。描き始めるまでに設計者に2回は足を運んでいただいた。明確な情熱は感じるが、抽象的な思いを正確に読み取るのは難しい。模型写真、施設の資料、google等を参照。SketchUp データをもつてアングル検討を開始する。

